

阿弥陀さまのおはたらき、 攝取の光明

すっかり春本番を迎えたよ
うな気がします。日中の最高
気温、昨日(七日)は二十一
度を超えました。外で動きま
わると汗はむほほです。

境内地のソメイヨシノもほ
ぼ満開ですし、桃の花は満開、
レンギョウもきれいな黄色に
色づいています。

ただ、花だけ育っているわ
けではないですよ。たくさ
んの花々と同じように雑草も
育っています。草との戦いの
日々が始まりました。二〇一
九年、新しい年を迎えてから
すでに三カ月が過ぎてい
ます。当然のことです。

「新年を迎えた」といえば
数年前より一月一日から庫裡
のお内仏前では朝夕『浄土三
部経』の繰り読みをしていま
す。そして、くり読みした該
当部分の現代語訳も音読して
います。

『浄土三部経』とは『仏説

無量寿経』(『大経』と略し
ます)、『仏説観無量寿経』
(『観経』と略します)、
『仏説阿弥陀経』(『小経』
と略します)の三つです。

本願寺八代ご門主蓮如上人
は「朝夕のおつとめには『正
信念仏偈』をおつとめしまし
う」と全国の寺院、門信徒に
すすめられました。そのおす
すめからは外れますが庫裡の
お内仏前では上記のとおり
つとめています。

一月一日から五十二日目、
二月二十一日朝のおつとめで
一回目の『浄土三部経』を終
え、ただ今、二回目の『観経』



法語の世界

《原文》

物にあくことはあれども、仏に成ることと弥陀の御恩を喜ぶとは、あきたることはなし。焼くとも失せもせぬ重宝は、南無阿弥陀仏なり。しかれば、弥陀の広大の御慈悲殊勝なり。信ある人を見るさへたふとし。よくよくの御慈悲なりと云々。
〔蓮如上人御一代記聞書〕二百三十一

《現代語訳》

「物事に飽き足りるということはあるけれども、わたしたち凡夫が仏になるということ、弥陀のご恩を喜ぶことには、もはや聞き足りた、もう十分に喜んだということはない。焼いてもなくならない貴重な宝は、南無阿弥陀仏の名号である。だから、この宝をわたしたちにお与えくださる弥陀の広大な慈悲はとりわけすぐれているのであり、宝である名号をいただいた信心の人を見ただけでも尊く思われるのである。本当にきわまりのないお慈悲である」と仰せになりました。

《用語の解説》

重宝…貴重な宝物

をつとめています。漢文のお
経さまはもちろん難しいので
すが、現代語訳でも難しく、
まさに不可思議の領域です。

ただ、不可思議の経文の中
にも好きなご文があります。
それは『観経』第九観「真身
観」中の

光明 徧照十方世界
念仏 衆生 攝取 不捨

というご文です。現代語訳で
は

光明はひろくすべての
世界を照らして、仏を念
じる人々を残らずその光
明のなかに摂め取り、お
捨てにすることがないの
である

となります。

なぜ好きなのか、それは阿
弥陀さまのはたらき(光明)

は差別がないからです。仏教
圏だけではなく、すべての世
界を齊しく照らしてください
ます。

その阿弥陀さまのはたらき
(光明)は無明の闇の中で悩
み苦しむ人の闇を破ってくだ
さいます(破闇)。合掌をし
念仏申すことのない人を、合
掌をし念仏申す身に育ててく
ださいます(調育)。合掌を
し念仏申す身になった人を、
光明のなかに摂め取って(攝
取)お捨てになりません。

私たちは生きていく上で、
少なからず「差別」「区別」
を受けていますが、阿弥陀さ
まは差別することなく十方世
界のすべての人びとを齊しく
その光明で照らし続け、「あ
なたをその身のままで必ず救
うから私を信じて念仏申す身
になってください」と南無阿
弥陀仏の声の仏さまとなって
喚び続けてくださいます。
そんな阿弥陀さまのおはた
らきを感じさせてくれる春の
陽光、春の風景を今年もい
だけます。ありがたいこと
です。

年回忌について

◎ お忘れではないですか

昨年中に本年、年回忌をお迎え
になるお宅にはご案内をお届けし
ています。
まだ、おつとめになっていない
お宅があります。お忘れではあり
ませんか。おつとめにならない場
合も連絡ください。

◎ 年回忌日程について

年回忌の日時を決められる際は
早目に相談してください。相談順
に日時を決めています。希望日
前日に相談を受けることがあり
ますが、ご要望に応じられない
こともあります。
また、年回忌は祥月命日を過ぎ
てもかまいません。

金光寺からの連絡

初盆会について

初盆会について、日時を決め、お齋の
予定をお立ての際は早目にご連絡くださ
い。受付順に日時を決めます。
本年は4月8日現在、23軒が初盆会
をお迎えになりそうです。
お齋の予定がない場合も連絡ください。
当山の空いている時間にお参りをいたし
ます。

